

秋の信州・北関東ドライブの旅 （2018年10月5日から13日まで 8泊9日） 小林 信生

- 本格的な秋になったので、紅葉狩りに適当かなと思って、信州から北関東各地を巡りましたが、結果的には、一部を除き、時期的にやや早すぎたようで、見事な紅葉という訳にはいきませんでした。
- 最初の訪問地、信州・蓼科(10月5日から10月8日)は、小生のホームグラウンドですが、我が家の近くでも結構色づいていて、散歩しながら、美しい紅葉が鑑賞出来ました。



- ここでの目玉は、東山魁夷の名画「緑響く」のモチーフとして一躍有名になった八ヶ岳山麓の「御射鹿池」です。もともと一般的な灌漑用溜池ですが、その背景となる木々の緑と池表の青色がとても美しく、素人写真でも、そこそこの風景写真に仕上がるという事で、近年、訪問者が多くなり、池の周りには、立派な駐車場も出来ています。



- この御射鹿池と道路を挟んで立っているのが、一軒家の秘湯「明治温泉」です。温泉旅館の裏には、「おしどり隠しの滝」と名付けられた美しい段々滝があって、渓谷では木々が色づき始めていました。



- 次に、10月9日、蓼科から大門峠を越えて佐久に下り、上信越道で富岡へ。世界遺産に登録された

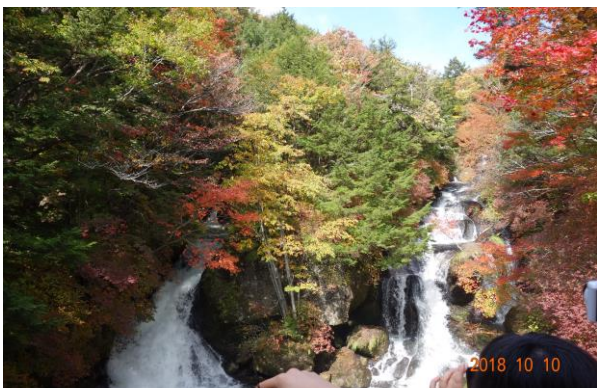
「富岡製糸場」を見学しました。明治の初期、フランスからの技術者の指導を受けて、先進的な絹の製糸工場として日本の輸出に貢献したそうで、昭和中期まで現役で働いていたそうです。



- 10月10日、宿泊地の桐生からわたらせ渓谷沿いに日光に向かいました。交通量は少なく快適でしたが、残念乍ら、紅葉には早く、緑の谷あいのドライブを楽しみました。
- 紅葉シーズン前の日光は、車も少なく、普段混雑して登れない明智平までロープウエーで上がれました。そこからの遠望できる華嚴の滝、中禅寺湖、男体山の景観は壮大で、素晴らしかったです。



- 次に、中禅寺湖畔の「竜頭の滝」を訪れました。車は少ないと言っても、日光の人気のスポットでは、駐車場待ちの車が列をなしていました。最近、雨が多かったせいか、滝は、水量が多く豪快に流れていました。滝茶屋裏には、大勢の見物客が絶好の写真スポットでカメラを向けていました。



- 中禅寺湖畔に、明治時代に立てられた元英国大使館と元イタリア大使館の別荘があります。今は栃木県が管理しており、湖畔の名所の一つです。「大人の休日倶楽部」のCMで吉永小百合が湖畔のテラスでくつろぐシーンは、英国大使館のテラスで撮られたものです。モダンな英国大使館に比べてイタリア大使館の方は、純日本建築で復元され、好対照でした。(ただし、外装は改修中)



(英国大使館のテラス-大人の休日倶楽部CM舞台)



(タリア大使館は純和風の縁側)

•二つの大使館を出て、すぐに中禅寺湖境界の中心に、中禅寺が立っています。世界遺産に指定された日光輪王寺の別院の、このお寺には見事な山門があり朱塗りの仁王像が立っています。本堂には、立木観音として有名な一本の大木から彫られた千手観音(十一面千手観音)像が安置されていました。



•10月10日と11日、鬼怒川温泉郷に宿泊。11日は、かなりの雨降りだったので、那須までドライブしましたが、ここも、まだ紅葉には早かったので、一枚も写真は撮れず、残念でした。

•10月12日、日光北街道をぬけて、北茨城に向かいました。途中、昔訪れたことがある袋田の滝と竜神大吊橋を再訪しました。袋田の滝も豪快で、下から、上から、横からと三方からの景観を楽しむことが出来ました。竜神大吊橋は、日本のバンジージャンプの名所でもあり、罰ゲームで負けた若者たちが飛ばされていました。彼らと親しくなり、飛ばない小生も、仲良く、一緒に写真に納まりました。



竜神大吊橋



左:ジャンプの瞬間 上:終えた若者と

・10月13日、旅の最終日、北茨城の五浦温泉民宿を出て、まず、茨城県境を越えて、福島・小名浜にある「アクアマリンふくしま」へ。ここは、近代的な水族館です。アシカやトドへのエサ付けの実演は面白く、また、大水槽の中には色とりどりの魚が沢山いて、思わずシャッターを切っていました。



・再度、北茨城に戻り、岡倉天心や横山大観が愛した五浦海岸の観光スポットを巡りました。一つは、茨城天心記念五浦美術館、もう一つは、六角堂です。天心記念美術館は、天心や大観がこよなく愛でたと言われる五浦海岸の入り組んだ入江の一角に立てられていました。天心は、東京開成所（現東京大学）の外人講師アーネスト・フェノロサから美術や英語を学び、後にボストン美術館の学芸員となるほど美術への憧憬が深くなりました。かつて、ボストン美術館に行ったときに、天心が書いた英文を読んで、明治時代にこんな立派な英語を書いた人がいたのかと感動したことを思い出しました。



・そして、天心の師弟であった横山大観、菱田春草、下村観山、木村武らは、天心を慕い、五浦に移り住み、天心が創設した日本美術院絵画部で、制作活動に精を出しました。日本画の巨匠たちが好んだと言われるだけあって、五浦海岸の景観は最高でした。

・その美しい海岸の岩の上にある六角堂は、天心自身の設計により建てられ「観瀾亭」と名づけられた赤い六角形のお堂ですが、残念なことに、先の東日本大震災の際、9平米ほどの建物は土台を残して流失し、今の六角堂はその後、立てたられた復元の建物です。



(六角堂)



(天心の胸像)



(釣りが好きだった天心像と釣船)

・多くのものを見て、沢山の感動をもらい、楽しくて、充実したドライブをすることが出来ました。帰路は都心避けて、東京の外環状圏央道を通り、常磐道から東北道／関越道を横切り、我が家に戻りました。車の走行距離メーターは丁度1400kmを指していました。 (おわり)